二月立春能

二月二日（日）正午始
開場 午前十一時

12:00

能 巴

シテ 葛野 りさ
ワキ 舘田 善博
ワキツレ 野口 能弘
〃 野口 琢弘
間 山本泰太郎
後見 山内 崇生・亀井 雄二
大鼓 柿原 孝則
小鼓 大山 容子
笛 熊本俊太郎
地謡 関 直美・土屋 周子・内田 朝陽・広島栄里子・石黒 実都・前田 親子・久貫 弘能・柏山 聡子

13:15

狂言 口真似

山本泰太郎
山本 則孝
若松 隆

〈休憩十分〉

13:45

能 吉野静

シテ 影山 道子
ワキ 森 常好
間 山本 則重
〃 山本 則秀
後見 野月 聡・小林 晋也
大鼓 佃 良太郎
小鼓 住駒 匡彦
笛 八反田智子
地謡 木谷 哲也・藤井 秋雅・金井 賢郎・川瀬 隆士・大友 順・今井 泰行・金井 雄資・金野 泰大

〈休憩十分〉

14:55

能 加茂物狂

シテ 内田 芳子
ワキ 則久 英志
ワキツレ 大日方 寛
後見 東川 光夫・内藤 飛能
大鼓 原岡 一之
小鼓 岡本はるな
笛 小野寺竜一
地謡 関 直美・土屋 周子・内田 朝陽・広島栄里子・石黒 実都・後藤 裕子・久貫 弘能・柏山 聡子

〈休憩十分〉

16:15

狂言 梟

山本凜太郎
山本 則重
山本 則秀

16:30

能 鵜飼

シテ 武田 伊左
ワキ 梅村 昌功
ワキツレ 御厨 誠吾
間 山本 則孝
後見 宝生 和英・辰巳大二郎
大鼓 亀井 広忠
小鼓 大村 華由
太鼓 姥浦 理紗
笛 成田 寛人
地謡 上野 能寛・朝倉 大輔・田崎 甫・當山 淳司・小倉健太郎・武田 孝史・高橋 亘・澤田 宏司

終演予定 十七時三十五分頃

演目の解説

能「巴」（ともえ）

木曽からやって来た僧は粟津ヶ原で女に出会います。僧が声をかけると、女は僧が木曽から来たことを知り、ここは木曽義仲が最後に自害した場所なので、祀られている義仲に一緒に手を合わせて欲しいと頼みます。夕暮れが近づき、僧に感謝しつつ女は去って行きますが、夜になり、今度は甲冑姿で長刀を手に現れます。女は巴御前の霊と名乗り、義仲の最後と自分の戦いを見せ、義仲の命令で木曽に戻らねばならなかった恨みを述べます。

狂言「口真似」（くちまね）

お酒を一樽もらった主人は、だれか楽しい人と一緒に飲みたいと思い、召使いの太郎冠者によい相手を探して来いと命じます。太郎冠者が連れてきたのは、何と近所でも評判の酒癖の悪い人でした。仕方なく少しだけ飲ませて早く追い返そうと思いますが、普段は礼儀正しい人なので失礼があってはいけないと思い、主人は太郎冠者に自分の真似をするように言いつけます。張り切って主人の真似を始めた太郎冠者ですが…。

能「吉野静」（よしのしずか）

吉野山に隠れていた義経一行は、衆徒が心変わりしたという報を受け、夜陰に乗じ落ちのびて行きます。残った宗徒が追手をかけるべきか相談している座敷に、都道者が紛れ込んで来ます。実はこの道者、義経の命令でただ一人残った佐藤忠信の変装した姿で、宗徒を翻意させようと色々と言葉を尽くします。宗徒が去って行くと、静御前が白拍子の姿で現れ、都道者に変装した忠信と示し合わせて山に残り、静は義経の忠心と武勇を訴え、舞を舞い、衆徒は舞の面白さに時を忘れてしまうのでした。

能「加茂物狂」（かものものぐるい）

三年ほど東国に出掛けていた男は、都が恋しくなり帰って来ます。折から葵祭の最中、賀茂の明神に参詣すると、葵を笹に付けた狂女に出会います。昔、藤原実方が舞を舞った橋本の社に想いを寄せた女は、笹を捨て烏帽子と長絹を着ると、夫を尋ねて東国に旅をした様を舞います。男はその様子を見ている内に、この女が都に残して来た妻であることに気づきますが、人目もあることと思い、妻も自分に気づくのを待って、かつて二人が住んだ五条の家に帰って行きます。

狂言「梟」（ふくろう）

ある男が、弟の太郎が山から帰って病気になったので、山伏のところへ祈祷を頼みに行きます。山伏はもったいぶって現れ、男の頼みを聞くと早速男の家に赴きます。山伏が弟の犠子を見て祈祷を始めると、弟は鳴き声をあげます。兄の話から、弟は山で梟の巣にいたずらをしたことがわかり、梟が憑いたものであろうと察し、梟の嫌う烏の印を結びます。ところが…。

能「鵜飼」（うかい）

安房の清澄から来た二人の僧は、甲斐の国石和川にさしかかり、村人に宿を借りようとしますが、禁制とてかなわず、洲先の無人の堂に泊まります。そこへ松明をかざしながら老人が現れます。老人は石和川の鵜使いで、数年前にこの老人に会った僧がその折の事を話すと、その鵜使いが死んだ事を告げ、詳しい経緯を語り、自らその霊であると明かし弔いを頼んで鵜を使う様を見せて消えて行きます。僧が弔っていると閻魔大王が現れ、一僧一宿の功力によって鵜使いを助け、法華経の功徳を讃えて去って行きます。

次回 文月能 ご案内

2020年7月4日（土）
正午始

松尾	土屋 周子
清経	広島栄里子
三輪	関 直美
来殿	後藤 裕子

於・宝生能楽堂